

本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

RECOMMEND BOOKS

2024 SUMMER

※価格は税別

RECOMMEND 03

松本 健太郎 (英語学科教授) 共編著、
鈴木 涼太郎 (交流文化学科教授) 分担執筆
『メディア・リミックス
デジタル文化の(いま)を
解きほぐす』

ミネルヴァ書房 2023年11月 2800円

デジタル技術が飛躍的に進歩した90年代以降に生じた大きな変動の一つの境目とみなし、デジタル文化をめぐっての(ビフォー)と(アフター)のコントラストに着目。いま私たちの目目で起きているデジタル文化の変容を立体的に浮かび上げられます。

RECOMMEND 07

白川 貴子 (交流文化学科非常勤講師) 訳
(ハビエル・セルカス 著)
『テラ・アルタの憎悪』

早川書房 2024年1月 2300円

獄中でユゴーの「レ・ミゼラブル」と出会い、犯罪をやめ警察官となったメルチョールは、カタルニャ州郊外の町テラ・アルタで、富豪夫妻殺人事件の捜査に当たる。正義と悪とは何かという根源的な問いを突き付ける、スペイン・ミステリの傑作。

RECOMMEND 11

岡田 順太 (法律学科教授) 分担執筆
『プレステップ憲法 [第4版]』

弘文堂 2024年2月 2000円

新型コロナ対策、LGBTQと人権、表現の自由など、身近なニュースと憲法の関わりが理解できるゼミナール編をはじめ、時事的な話題から斬り込んだ解説が好評なシリーズ最新版。気鋭の憲法学者たちがユーモアとスパイスの効いた筆致で憲法の現状と課題を整理した不動の決定版テキスト。

RECOMMEND 15

松本 健太郎 (英語学科教授) 共編著
『日中韓のゲーム文化論
なぜ、いま(東アジア・ゲーム批評)なのか』

新曜社 2024年3月 4500円

いまや世界中が「ゲーム化」している。しかしその思想的意味はどこにあるのか。欧米を追い越し先頭に立った日本、それに迫ろうとしている中国・韓国のゲーム文化。三国の優れた批評のなかに独自性を探りつつ、東アジアのゲーム文化を展望する論集。

RECOMMEND 04

井上 周平 (ドイツ語学科非常勤講師) 分担執筆
『公衆衛生と感染症を歴史的に考える』

山川出版社 2023年12月 1800円

歴史上度々登場する疫病の流行した時代に、ヨーロッパのみならず、アジアでも人々はどうのような向き合い方をしてきたのか、また、感染者数など、その数量を把握するということはどういうことか、といった様々な疑問を紐解いていきます。

RECOMMEND 08

井上 靖代 (経営学科教授) 分担執筆
『図書館情報資源概論
JLA図書館情報学テキスト
シリーズⅢ 8』

日本図書館協会 2024年1月 1900円

公立図書館の在り方を今日の視点で再検討、再評価しながら、印刷メディア、非印刷メディア、ネットワーク情報資源の種類や特質、利用、取扱いに関わる図書館業務の基礎的知識を解説し、動向と課題を考察、省令科目「図書館情報資源概論」、「図書館情報資源特論」の学習用テキストとしてお助めの一冊。

RECOMMEND 12

藤田 貴宏 (法律学科教授) 分担執筆
『キーコンセプト法学史
ローマ法・学議法から西洋法制史を拓く』

ミネルヴァ書房 2024年2月 3500円

「所有」「離婚」など誰でも知っている用語から、一般にはあまり使わないが法学の基本用語である「錯誤」「占有」「取得時効」まで、法学史・法制史的視点から掘り下げたコンセプト集。法学や隣接領域を学ぶ上で欠かせない基本概念を集め、西洋法制史の基本を網羅した一冊。

RECOMMEND 16

森永 卓郎 (経済学科教授) 著
『書いてはいけない
—日本経済墜落の真相—』

三五館シンシャ 2024年3月 1500円

「ジャーニズの性加害」「財務省のカルト的財政緊縮主義」「日本航空123便の墜落事件」。四半世紀に及ぶメディア活動で見聞してきた「3つのタブー」に挑み、その背景に存在する真相を描き出します。

RECOMMEND 01

松本 健太郎 (英語学科教授) 分担執筆
『図書館情報学事典』

丸善出版 2023年7月 20000円

図書館の歴史や基礎論、メディア論はもとより、情報へのアプローチ方法や組織化の技術まで、最新の研究知見をもとに執筆。デジタルトランスフォーメーション(DX)社会を見据え、従来の紙のメディアや図書館と、情報や知のシステムとの連続性をわかりやすく解説。

RECOMMEND 05

北野 収 (交流文化学科教授) 著
『私の中の少年を探しに
ある「農学者」が回想する
昭和平成』

デザインエッグ 2024年1月 2772円

平凡な人間の平凡な日々の中にも、少し角度を変えてみると、映画や小説の一場面のようにキラリと輝く一瞬があります。それが誰の人生であっても人生は詩であり、物語なのです。元官僚で今は国際開発を専攻する大学教師で、自称「国際農学者」という筆者の「少年」探しの旅を共同体験する一冊。

RECOMMEND 09

安原 陽平 (法律学科准教授) 分担執筆
『教職課程のための憲法入門 (第3版)』

弘文堂 2024年1月 2200円

教職課程の必修科目である憲法。本書は、法学を専門としない教職志望者が、子どもたちや教育実践と関連づけて憲法をやさしく学べるように、校則、給食、生徒会選挙といった学校の日常にある事例をベースにしつつ、さらに専門用語をわかりやすく言い換えるなど、さまざまな工夫を重ねています。

RECOMMEND 13

藤田 貴宏 (法律学科教授) 分担執筆
『社会の多様化と私法の展開
—小野秀誠先生古稀記念論文集』

法律文化社 2024年2月 12000円

民法が対峙する現代社会の多様な課題に、私法学はどのように取り組み、未来への道筋を示すべいか。「社会のグローバル化と法」「取引の多様化と法」「現代社会と法」「法の歴史的展開」の4部構成、29論考を収録。

RECOMMEND 17

上村 敏郎 (ドイツ語学科教授) 分担執筆
『ハプスブルク家の歴史を
知るための60章』

明石書店 2024年4月 2000円

12世紀から第1次世界大戦が終結する1918年まで、約800年間にわたって君主国家を継承してきたハプスブルク家。その名が国名にもなっていた唯一無二の王家に焦点を当てると、西洋史上の出来事のつながりが可視化され、その本当の意味がみえてきます。

RECOMMEND 02

松本 健太郎 (英語学科教授)・山口 誠 (交流文化学科教授) 共編著、
鈴木 涼太郎 (交流文化学科教授)・須永 和博 (交流文化学科教授) 分担執筆
『観光が世界をつくる』

明石書店 2023年7月 2600円

観光が創り上げる独特の「世界＝リアリティ」について書かれた論考集。映画・小説・まんが・世相等、15の章から現代における観光の事例を考えることで、観光社会学の新たな地平を切り拓くを試みます。

RECOMMEND 06

玉井 昇 (交流文化学科教授) 分担執筆
『海の法文化と陸の法文化』

国際書院 2024年1月 3600円

陸の法文化とは異なる海の法文化は存在するのか。海洋における文化財保護法と水中文化遺産の保護などについて論じるほか、海洋管理における地域伝統と西洋法観念との相克、国際的海洋管理上の問題をとりあげます。

RECOMMEND 10

古畑 侑亮 (言語文化学科特任講師) 著
『コレクションと歴史意識
十九世紀日本のメディア
受容と「好古家」のまなざし』

勉誠社 2024年2月 10000円

幕末・明治という転換の時代を生きた一人の村医者に視座を置き、彼が遺した書簡や紀行文、編纂物を手がかりとしてそのコレクションを紐解く。大学という制度や学知が確立する以前の在野における歴史研究の実相とアカデミズムへの継承を描き出す画期的著作。

RECOMMEND 14

松本 健太郎 (英語学科教授) 共編著
『都市と文化のメディア論』

ナカニシヤ出版 2024年3月 2600円

都市文化に関わる近現代的な事象に多様な角度から迫り、情報化の進展にともない、基本的な単位や輪郭が再編されつつある都市を捉える一冊。

RECOMMEND 18

高安 健一 (経済学科教授) 共編著
『大学生のための世界の課題発見講座』

日本能率協会 2024年4月 2200円

本学で2021年度に開講した全学総合講座「新聞記者と学ぶ現代経済：SDGs未来講座」の授業を、初年次教育用のテキストとして編集しました。取材のプロである日本経済新聞社の記者が、SDGsを切り口に課題発見技法を解説します。

DOKKYO
SDGs
Sustainable Development GoalsEarth Week Dokkyo
学生と教職員が一丸となって
地球課題に挑む環境週間

6月24日～29日の1週間、獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2024～Summer～」が開催されました。みなさんはイベントに参加しましたか？

Earth Week Dokkyoでは、冷暖房の使用により電力需要が高まる6月と12月に、「地球のことを考える1週間」を設定し、学生、教員、職員の意識を高めて、持続可能な地球社会の実現を目指すためのイベントを実施しています。

今回は、「草加の野菜を食べよう!～ピザ窯で作るピッツァ～」やフェアトレードコーヒーの配布、公開省エネ推進会議や全学ライトダウン・キャンペーンなどが実施されました。全学部の学生で構成されている実行委員会がイベント参加団体を募集し、運営しています。実行委員会は随時、メンバー募集中です！一緒に、持続可能なキャンパスライフの実現を目指しませんか。



ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り

Vol.111

レポート作成にも図書館を活用しよう！

学期末に近づき、そろそろレポートの課題が出される頃ですね。「初めてレポートを書く!」という方にとっては、分からないことも多いと思います。まずは、レポートを書く際のステップとポイントを確認しておきましょう。

STEP 01 テーマを決める

何について論じるのか、出題されたテーマを確認します。

STEP 02 事前調査

テーマの基本概念や背景を把握しましょう。入門書を読むのもおすすめです。

役立つデータベース

JapanKnowledge Lib

様々な分野の辞書や百科事典を一度に検索できます！

STEP 03 構成を考える

事前調査が済んだら、レポートの構成を考えます。序論・本論・結論を意識すると良いでしょう。

STEP 04 文献の調査・入手・読解

構成が決まったら、集めたキーワードなどを使って、主張を裏付ける根拠資料を探します。

本や論文、データベースなどを使って、信頼性の高い情報を集めよう！

STEP 05 本文の執筆

構成に沿って、調べた資料やデータを用いながら、自分の意見を書いていきましょう。

他人の意見の「引用」をする際は、出典を明記するなどのルールを守ろう！

もし迷ったり、困ったりしたら……
レファレンスカウンターに相談！



カウンターは1階と2階にあります

納得のいくレポートが書けた!／

レポートの書き方を動画でも配信中!
PorTaIIの「ダウンロードセンター」に掲載しています。



学生サポート

学生サポート